

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成24年4月26日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・職名 京 都 大 学 総 長

氏 名 松 本 紘

助成の種類	平成23年度・国際協力事業助成			
事業名	国際大学連合(APRU・AEARU)事業への参画			
実施期間	平成23年 4月 1日 ~ 平成24年 3月31日			
実施場所	本学を含むAPRU・AEARU加盟大学			
参加者	総数 13名	内 訳 教員6名(内特定教員1名)、研究員1名、学生6名(学部・修士課程・博士課程 各2名)		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()			
会 計 報 告	事業に要した経費総額	4,975,795 円		
	うち当財団からの助成額	2,126,848 円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 京都大学 国際交流推進機構基盤強化経費		
	経費の内訳と助成金の使途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	[APRU] 渡航費・滞在費	2,745,985	1,252,488	
	[AEARU] 渡航費・滞在費	2,229,810	874,360	
	合 計	4,975,795	2,126,848	

成 果 の 概 要

京都大学総長 松本 紘

◇APRU（環太平洋大学協会）関連事業

（The Association of Pacific Rim Universities）

APRU は、環太平洋圏の主要大学 42 の大学により構成される大学連合であり、本学は本協会の設立メンバー（1997年6月）である。

APRU は、環太平洋圏の主要大学の相互理解を深めることにより、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題の解決（例えば経済発展、都市化、技術移転、大気汚染、資源枯渇等）に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的としている。

会員大学は、教育・学術研究等に広い分野を有し、それぞれの地域で主要な教育機関として広く認められている大学である。2011年のQS World University Rankingsにおいては、42のAPRU加盟大学の内、38大学が200位以内に入っており、50位以内には16大学、25位以内にも5大学が入っていることから、環太平洋地域に留まらず世界でもトップクラスの大学が集まる大学連合であると言える。

本学は、2009年より総長がAPRU運営委員会（Steering Committee）メンバーとなり、協会の運営において指導的な役割を果たしている。そのため、学長や役員及び事務スタッフが協会運営に係る会議（年次学長会議等）に参加するための旅費については、毎年大学経費で十分な予算を確保している。

このほか、同協会は、人材開発のためのフォーラム、地域内の諸問題の解決を目指すリサーチシンポジウム、学生の能力養成プログラム等の多様な活動を行っており、本学からは平成23年度においても貴財団からの助成金により、教員及び学生の派遣を行った。以下にイベント毎の概要と成果を挙げる。

第1回 Provosts Forum

開催日：4月26日～4月27日

開催場所：シンガポール国立大学（シンガポール）

参加者：吉川潔理事、榎木哲夫理事補、研究国際部職員1名

（内榎木理事補の渡航費・滞在費を貴財団助成金より支出）

概要と成果：

3つの分科会（1. 優れた教員の採用と保持、2. 学際的研究、3. 留学プログラムの質の保証）に分かれて、所属大学のモデルケースについての発表と議論を行った。

フォーラムを通じて、教員及び学生の流動化を進め、優秀な人材が国境を越えて活躍できる環境をつくるための情報交換と今後の発展に向けての活発な議論が行われた。

第6回学部学生サマープログラム

開催日：7月6日～7月17日

開催場所：浙江大学（中国）

参加者：学部学生2名（2回生及び4回生）

概要と成果：

・テーマ

Developing Entrepreneurial and Innovative Talent in the 21st Century

- ・プログラムの内容

イノベーション・アントレプレナーシップに関するケーススタディ、中国経済に関するレクチャー、企業訪問、ビジネスプランコンテスト

- ・成果

多様なプログラムを通じ、著しい発展を遂げる中国経済の現状を肌で感じる事が出来、企業のCEOと直接話しをする機会を得られるなど、学生達が将来社会で活躍していく上での有益な体験をすることが出来た。

また、参加学生がチームに分かれてビジネスイノベーションの提案を競い合うビジネスプランコンテストでは、異なる国の学生と文化や価値観の違いを超えて、1つの目標のために協力することを通じて、ディベート能力やプレゼンテーション能力を磨くことができた。なお、本学参加学生のチームは、最優秀賞を受賞した。

CI0& Education and Research Technology Forum

開催日：10月10日～10月14日

開催場所：メキシコ国立自治大学（メキシコ）

参加者：美濃導彦情報環境機構長

概要と成果：情報技術の教育研究への活用について、最新の研究成果や先進事例の発表が行われ、また Parallel Sessions で活発な意見交換が行われた。Mobile devices and ubiquitous computing 等について新たな知見を得ることが出来た。

第4回老年学に関するリサーチコンファレンス

開催日：10月28日～10月29日

開催場所：復旦大学（中国）

参加者：博士課程学生1名（1回生）

概要と成果：「当院心臓リハビリ部門における高齢心不全患者の予後調査」のタイトルでポスター発表を行い、専門の研究者から貴重な意見等、今後の研究の方向性への示唆を得ることが出来た。

第7回環太平洋マルチハザードリサーチシンポジウム

開催日：11月24日～11月26日

開催場所：オークランド大学（ニュージーランド）

参加者：博士課程学生1名（1回生）

概要と成果：「Application of dynamic stochastic macroeconomic model for long-term planning of disaster prevention」のタイトルでプレゼンテーションを行った。多くの研究者から興味を持ってもらえた。異分野の研究者が災害という共通のテーマについて議論を行うことで、個々の研究者が災害へのより効率的な対処法を考えていく上で非常に有益な刺激が得られた。

◇AEARU（東アジア研究型大学協会）関連事業

（The Association of East Asian Research Universities）

AEARUは、東アジアの研究型大学で構成される大学連合である。1996年1月に結成され、1998年

には本学も加盟し現在 17 大学が加盟している。

AEARU の目的は、地域的・文化的・学術的な類似性を有するだけでなく、学術的プロフィール、教育目標及び学術研究・開発においても共通の関心を持つ東アジア地域の主要な研究型大学を結集し、研究者及び学生の交流、共同研究プロジェクトの推進、特定のテーマに沿った会議・ワークショップの開催など、相互の関心に基づく協力を行うことにある。

会員大学は、それぞれの地域の主要な研究型大学として広く認められている大学である。2011年の QS World University Rankings においては、17の AEARU 加盟大学の全てが200位以内に入っており、50位以内には8大学、25位以内にも2大学が入っていることから、東アジア地域に留まらず世界でもトップクラスの大学が集まる大学連合であると言える。

本学は、2004年から2011年の間、理事会メンバーを務め、また2008年年1月から2年間、議長校を務めるなど、主導的な役割を果たしてきた。そのため、学長や役員及び事務スタッフが協会運営に係る会議（年次総会、理事会等）に参加するための旅費については、毎年大学経費で十分な予算を確保している。

このほか、同協会は、シンポジウム、ワークショップ、学生の能力養成プログラム等の多様な活動を行っており、本学からは平成23年度においても貴財団からの助成金により、教員及び学生の派遣を行った。以下にイベント毎の概要と成果を挙げる。

第11回分子生物学・生物工学ワークショップ

開催日：11月20日～11月22日

開催場所：香港科技大学（中国）

参加者：竹安邦夫教授、研究員1名、修士課程学生2名（1回生及び2回生）

概要と成果：竹安教授は、「Protein Structure and Function Revealed by Force Spectroscopy」の標題により、分子生物学に関する自身の研究成果について講演した。

他に派遣した3名は、ポスター発表を行い、異なる専門分野の研究者を含む多くの研究者とのディスカッションと情報交換を行った。また、今後の研究のためのネットワーク作りを行うことが出来た。なお、3名とも事前に提出したアブストラクト（発表内容の概要）の内容が評価され、Travel Award を受賞した。

第5回ネットワーク教育ワークショップ

開催日：11月30日～12月2日

開催場所：南京大学（中国）

参加者：美濃導彦情報環境機構長、梶田将司教授、リー・シーチェン・ナンシー特定外国語講師

概要と成果：本ワークショップは、急速に進むグローバル化の中で、大学におけるイノベーションに重要な役割を果たしている各大学の IT 組織の様々な経験や先進的な取り組みを共有するために開催された。本学からの3名の参加者は、クラウドコンピューティング等の情報技術を活用することによる教育環境の改善について、それぞれプレゼンテーションを行った。また、各国の研究者と深い議論を行うことが出来た。

最後となりましたが、貴財団より助成を受けたことにより、多数の研究者及び学生を派遣し多くの成果をあげることができましたことをここに厚く御礼申し上げます。